

# 若年層における東京圏・地方圏移動に関する意識調査 結果のポイント①

## <調査の概要>

若年層(20~34歳)のうち、東京圏↔地方圏で移動した者を対象にインターネット調査を行い、移動理由など移動に関する意識を把握。

・調査対象者: 下記の(条件1)と(条件2)のそれぞれについて、該当する20~34歳の男女約2,000人 ※条件1と条件2の両方に該当する者あり

(条件1)「過去4年以内に地方圏から東京圏に住民票を移したもの」 2,078サンプル

(条件2)「過去4年以内に東京圏から地方圏に住民票を移したもの」 2,013サンプル

・ウェイトバック集計: 回収後のサンプルに男女、年齢等の偏りが見られたため、総務省「住民基本台帳人口移動報告」の移動者数に一致するよう、重みをつけた集計を実施。(転入・転出別×移動年別×性別×年齢階級別に重みを設定。)

## <ポイント1: 東京圏↔地方圏の移動理由>

- 地方圏から東京圏への移動は、男性の約74%、女性の約49%が、就職・転勤・転職などとなっており、仕事上の理由が多い。
- 東京圏から地方圏への移動は、仕事上の理由が多い(男性:約66%、女性:約37%)が、地方圏から東京圏への移動に比べると、その割合は小さく、その他(結婚・出産・親の介護等)の理由が多く(男性:約17%、女性:約37%)なっている。
- 転勤については、「地方圏→東京圏」「東京圏→地方圏」別、男女別の全てのグラフにおいて会社の移転、再編に伴う転勤と、そうでない通常の人事異動による転勤が同程度。
- 進学、就職、転勤については、男性が全体的に高くなっている一方、その他については、女性が全体的に高くなっている。

## 地方圏→東京圏の移動理由

- 進学するため移した
- 大学等を卒業し、就職するため移した
- 進学等を機に既に居住していたが、就職が決まったため住民票を移した
- 会社の移転、再編に伴い、転勤となったため移した
- 会社の移転、再編を伴わない通常の人事異動により転勤となったため移した
- 転職するため移した
- 家族の転勤に伴って引越しをしたため移した
- 家族の転職に伴って引越しをしたため移した
- その他(結婚・出産・親の介護等)の理由により引越しをしたため移した

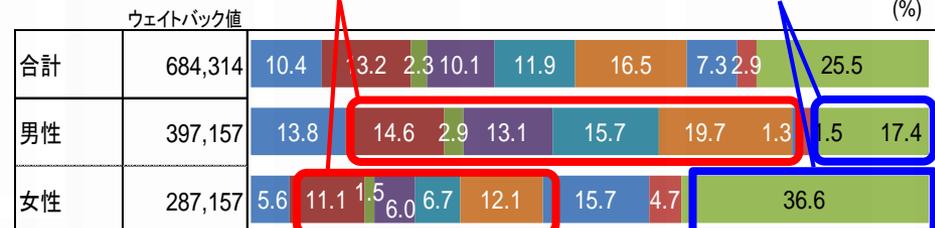
仕事(就職・転勤・転職) (男性約74%、女性約49%)  
 その他(男性6.9%、女性27.6%)



## 東京圏→地方圏の移動理由

- 進学するため移した
- 大学等を卒業し、就職するため移した
- 進学等を機に既に居住していたが、就職が決まったため住民票を移した
- 会社の移転、再編に伴い、転勤となったため移した
- 会社の移転、再編を伴わない通常の人事異動により転勤となったため移した
- 転職するため移した
- 家族の転勤に伴って引越しをしたため移した
- 家族の転職に伴って引越しをしたため移した
- その他(結婚・出産・親の介護等)の理由により引越しをしたため移した

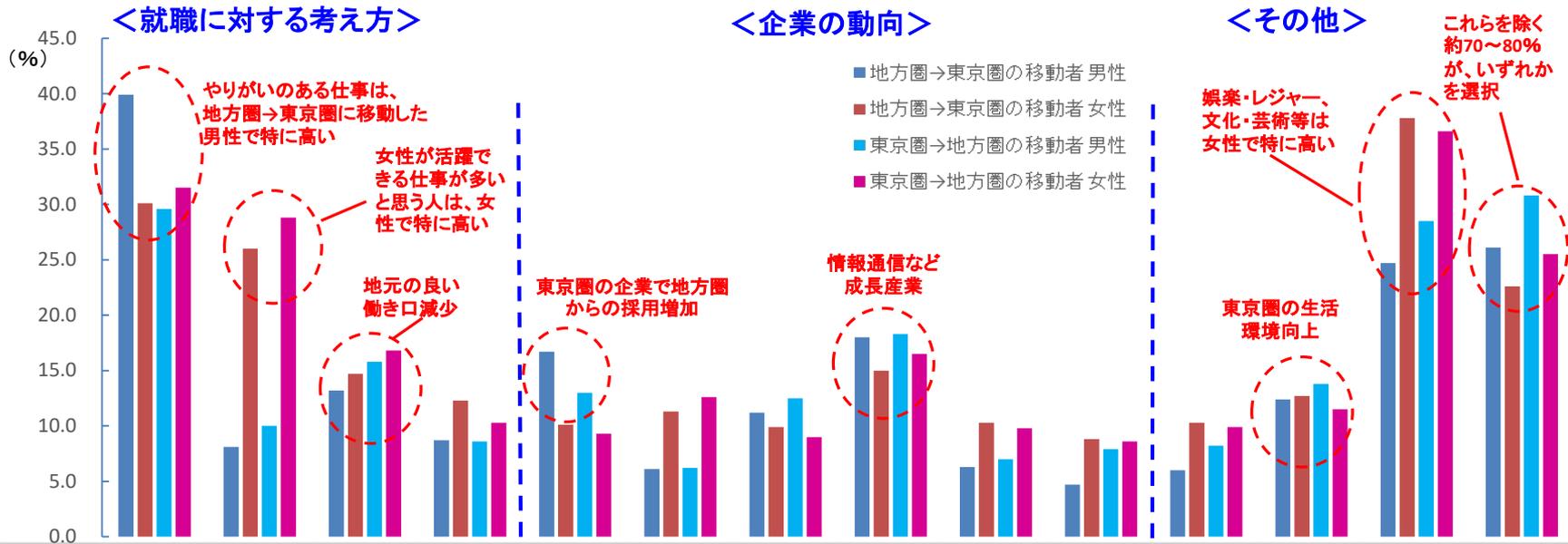
仕事(就職・転勤・転職) (男性:66%、女性37%)  
 その他(男性約17%、女性約37%)



# 若年層における東京圏・地方圏移動に関する意識調査 結果のポイント②

<ポイント2: 東京圏や地方圏について、感じていることや、見聞きしていること>

- 「同じ会社や同じ業種でもやりがいのある仕事は東京圏に多い」、「娯楽・レジャー・文化・芸術等に触れる機会は東京圏に多い」は男女ともに25～40%が選択。特に、前者は地方圏から東京圏に移動した男性で約40%と高く、後者は女性で25%超と高い。
- 「女性が活躍できる仕事は東京圏に多い」について、男性においては、8～10%程度の選択にとどまっているが、女性においては、25～30%超が選択。
- 「情報通信など成長している企業は東京圏に集中している」、「地元で良い働き口が減った」、「東京圏の企業で地方圏からの採用が増えている」などは男女ともに、10～20%程度が選択。



	合計	同じ会社や同じ業種でも、やりがいのある仕事は東京圏に多い	女性が活躍できる仕事は東京圏に多い	地元で良い働き口が減った	地元を離れて東京圏で仕事することを、理解してくれる家庭が増えた	東京圏の企業で地方圏からの採用が増えている	東京圏の方が企業で女性の採用に力を入れている	本社機能や企画部門などを東京圏にシフトしている企業が増えている	情報通信など成長している企業は東京圏に集中している	保育や医療・介護など東京圏の福祉や医療関係の採用が増えている	訪日外国人の増加などで東京圏の宿泊や飲食サービス関係の採用が増えている	東京圏でオリンピック・パラリンピックに関連した採用が増えている	東京圏の生活環境が良くなって住みやすくなっている	娯楽・レジャー・文化・芸術等に触れる機会は東京圏に多い	選択肢の中に感じていることや、見聞きしたことはないものはない
	ウェイトバック値														
地方圏→東京圏 男性	228776	39.9	8.1	13.2	8.7	16.7	6.1	11.2	18.0	6.3	4.7	6.0	12.4	24.7	26.1
地方圏→東京圏 女性	148216	30.1	26.0	14.7	12.3	10.1	11.3	9.9	15.0	10.3	8.8	10.3	12.7	37.8	22.6
東京圏→地方圏 男性	397154	29.6	10.0	15.8	8.6	13.0	6.2	12.5	18.3	7.0	7.9	8.2	13.8	28.5	30.8
東京圏→地方圏 女性	287156	31.5	28.8	16.8	10.3	9.3	12.6	9.0	16.5	9.8	8.6	9.9	11.5	36.6	25.5

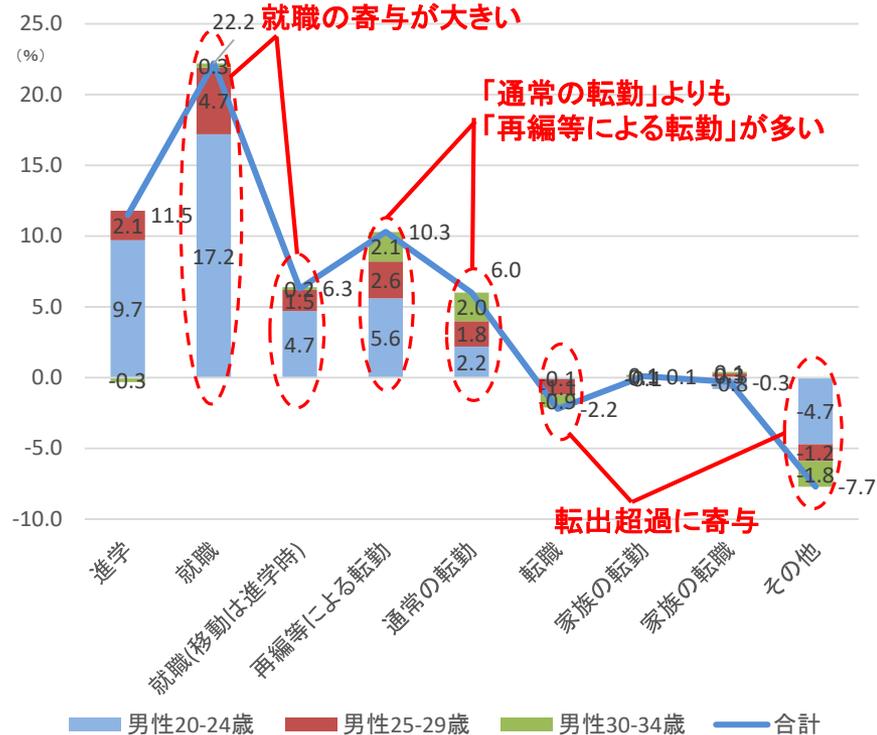
# 若年層における東京圏・地方圏移動に関する意識調査 結果のポイント③

※東京圏への転入(地方圏→東京圏の移動者)から地方圏への転出(東京圏→地方圏の移動者)を差し引き、転入超過数(総数)に対する比率をみることで、進学・就職などの転入超過への影響度を分析。ウエイトバック集計したものの差をみており、結果は幅をもって受け止める必要。

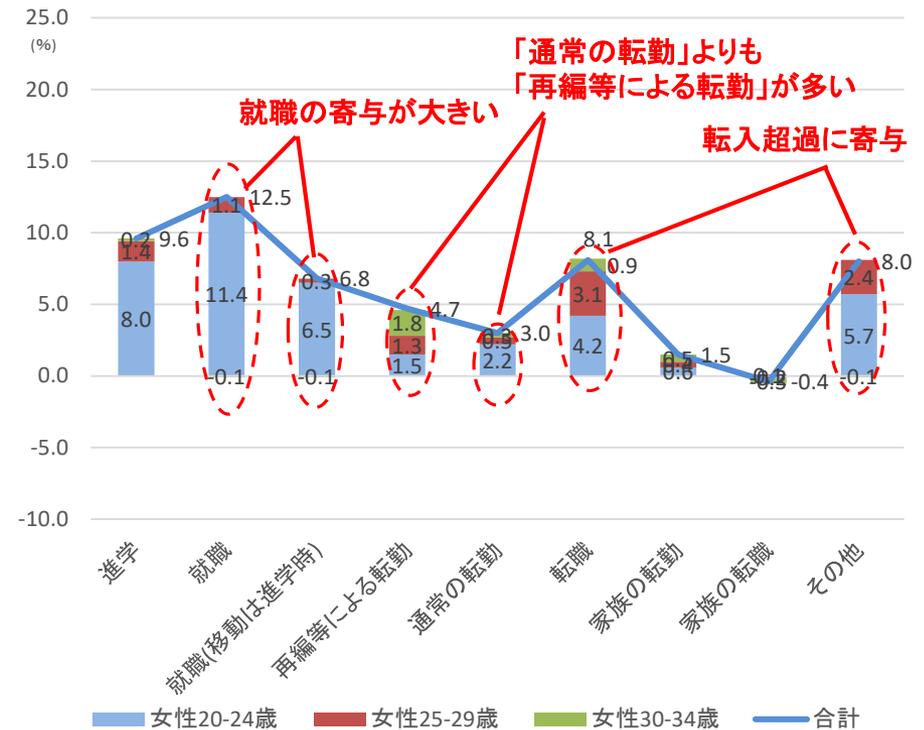
## ＜ポイント3:転入超過数に対する移動理由の影響度の分析＞

- 東京圏への転入超過に対する寄与を見ると、調査対象が20～34歳であることもあり、男女ともに「就職」(特に20～24歳の就職)の寄与が大きい。
- 男性では、「転勤」は転入超過、「転職」は若干だが転出超過に寄与している一方、女性では、「転勤」、「転職」ともに転入超過に寄与している。転勤について詳しくみると、男女ともに会社の移転、再編に伴う転勤(「再編等による転勤」)は、そうでない通常の人事異動による転勤(「通常の転勤」)よりも寄与が大きい。
- その他(結婚・出産・親の介護等)は、男性では転出超過、女性では転入超過に寄与。

### 男性・移動時の年齢別



### 女性・移動時の年齢別



- 進学:進学するため移した、
- 就職:大学等を卒業し、就職するため移した
- 就職(移動は進学時):進学等を機に既に居住していたが、就職が決まったため住民票を移した
- 再編等による転勤:会社の移転、再編に伴い、転勤となったため移した

- 通常の転勤:会社の移転、再編を伴わない通常の人事異動により転勤となったため移した
- 転職:転職するため移した、家族の転勤:家族の転勤に伴って引越しをしたため移した
- 家族の転職:家族の転職に伴って引越しをしたため移した、
- その他:その他(結婚・出産・親の介護等)の理由により引越しをしたため移した